

長野市民病院 透析室

○関取貴子 今井和子 秋山美保

中込みゆき 橋本和美 坂野武司 山口孝江 床尾万寿雄 (内科)

はじめに

当院透析室では、透析導入初期にパンフレットを使用し、シャント管理指導を行っている。しかし、指導を行っているにも関わらず、シャント音を聞いていない患者がいた。また、看護師間でも指導の内容は統一がなく、転院してきた患者(6名)には再指導が行われていなかった。

そこで、患者のシャント管理状況を知り、指導統一の目的で新しいパンフレットを作成し、シャント管理に重点をおき再指導を行ったので報告する。

1.目的

- ① シャントの自己管理の実際を知る。
- ② 看護師間での指導方法の統一。
- ③ シャント管理の再指導。

*用語の定義

パンフレットによる指導前を指導前とする。
パンフレットによる指導後を指導後とする。

2.研究方法

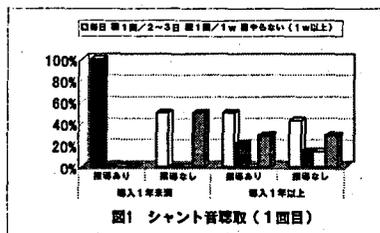
- ① 研究対象：透析患者 26 名
平均年齢 64 歳 (うち家族管理 5 名)
透析移行期～維持期 (導入後 1 年未満) 5 名
(指導あり 3 名 指導なし 2 名)
透析維持期 (1 年以上) 21 名
(指導あり 14 名 指導なし 7 名)
- ② データ収集の場所及び期間
外来 透析室
平成 14 年 11 月 25 日～平成 15 年 1 月 6 日
- ③ データ収集及び指導
 - 1) シャント管理状況の聞き取り調査
第 1 回目
 - 2) シャント管理の新しいパンフレット作成
 - 3) 看護師間の指導を統一
 - 4) 2)を使い指導
 - 5) シャント管理状況の聞き取り調査
第 2 回目 (指導 1 週間後)

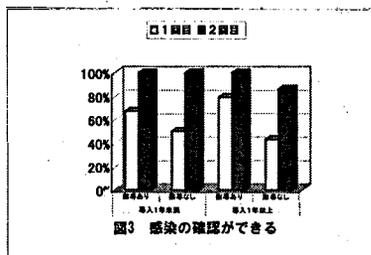
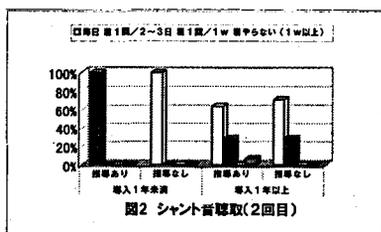
関取貴子 長野市民病院 透析室

〒381-0006 長野市富竹 1333-1 026-295-1199

3.結果

- ① シャント音の確認 (図 1、2 参照)
 - ・導入 1 年未満 (指導あり) の患者
指導前後に関わらず、100%が毎日確認できている。
 - ・導入 1 年未満 (指導なし) の患者
50%が全く確認できていない。指導後、毎日確認するが、100%に上昇した。
 - ・導入 1 年以上 (指導あり) の患者
毎日確認できるが 50%から、指導後 64%になり若干の上昇がみられた。確認しないが、29%から 7%に減少した。
 - ・導入 1 年以上 (指導なし) の患者
毎日確認できるが 43%の人から、指導後 71%になった。確認しないが 0%になった。
- ② 感染 (図 3 参照)
 - ・指導ありの導入 1 年未満は 67%、導入 1 年以上は 79%確認できていた。指導後 100%が確認できるようになった。
 - ・導入 1 年未満・導入 1 年以上の指導なしでは、確認できているのが、50%以下だった。指導後導入 1 年未満は 100%になった。導入 1 年以上は 80%にとどまってしまった。
- ③ 日常生活
 - ・導入 1 年未満、1 年以上、指導あり、なしにかかわらずほぼ全患者ができており、指導後 100%の人が注意をはらえるようになった。





4.考察

自己療養についての安定の方法を大坪¹⁾は、「医療指示を守り、自分の生活調整をしていく」とある。当院では導入前から医師より、シャント造設予定の腕では、採血をしない等の説明を受けている事から、日常生活のシャント管理は、ほぼ全患者が注意していたと考えられる。

シャント音の確認は、導入1年未満で指導ありの患者は、指導前より全患者が毎日確認できているが、指導のない患者は50%であった。しかし、指導後全患者が確認できるようになった。伊野²⁾は、「透析導入後3ヶ月から12ヶ月以降は透析を受容し、新しい自己概念が形成され、自己管理に必要な正確な知識や経験を習得する時期である」と述べていることから、導入初期の指導は重要であると考えられる。しかし、導入1年以上経ってしまうと指導の有無に関わらず、指導後も毎日確認できるのが、64%、71%にとどまってしまった。「俺は、シャントの音なんか聞かなくても大丈夫。それで今までやってきた。」と、指導を聞き入れてもらえない患者もいた。長期の透析経験からトラブルが無い為、基本的なシャント管理ができていない。

また、再度指導しても受容できないのは、1度身に付いてしまった生活習慣は、なかなか変えられない事の現われかもしれない。看護師間でも、長期透析患者や他院導入患者は、すでに指導がなされているだろうとの思い込みから、シャント管理指導が行き届いていなかったと思われる。

感染の確認においては、導入1年以上の指導なしの患者が、80%にとどまってしまったのは、今回の調査では原因が明らかにならなかった。しかし、その他の患者が指導後確認できるようになったことから、指導の統一性も重要であると再認識した。

今回の調査が1週間と短期間であった為、患者自身も改善しようにも無理があったのかもしれない。しかし今後もシャント管理をしていく上で導入期に指導するだけでなく、患者との関わりの中でシャント管理の必要性を継続して指導することが大切である。

5.おわりに

今回シャント管理に重点をおいて再指導したことで、あらためてシャントの重要性を知ることができた。

また、パンフレット作製により、スタッフ間の指導統一もできた。今後は、長期透析患者に対する再指導の検討が必要である。

6.参考文献

- 1) 大坪みはる：長期透析患者の自己管理，臨床看護6
- 2) 伊野恵子：腎不全，透析における看護実践南江堂
- 3) 中山優子：高齢者の透析導入時の指導，臨床看護11